

特別展

新収蔵記念

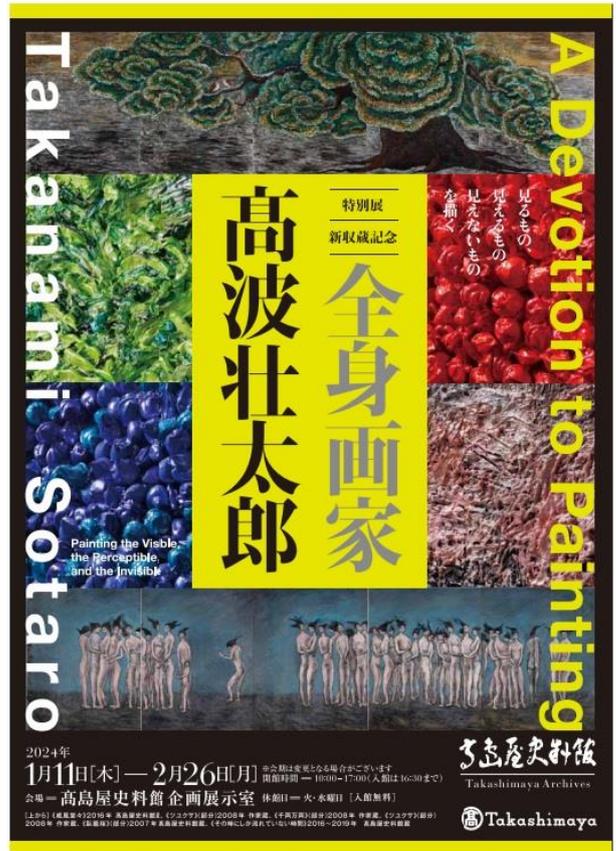
全身画家 高波壮太郎

—見るもの、見えるもの、見えないものを描く—

- 会期 : 2024年1月11日(木)→2月26日(月)
- 会場 : 高島屋史料館 企画展示室 (大阪市浪速区日本橋 3-5-25 高島屋東別館3階)
- 開館時間 : 10:00—17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 : 火・水曜日 ※年末年始休館 2023年12月26日(火)—2024年1月10日(水)
- 入館料 : 無料

「絵を描くことは、生きること」と断言する画家 高波壮太郎 (1949—)。1990(平成2)年に高島屋大阪店で開催した初個展以来、高島屋各店の美術画廊で個展を重ね、その回数は延べ100回を超えています。自らのほとぼしる感情に突き動かされ、納得がいくまで絵の具を塗り重ねる(時にはチューブから直に絞出す)、命懸けともいえる激烈なマチエール(仏語matière…絵肌)の作品は、見る者を圧倒します。全身全霊を注ぎ込み、次々と作品を生み出すそのさまを「全身画家」とも形容される高波。どの団体にも属さない孤高の画家は、近年、活躍の場を海外にも広げています。

このたび、高島屋史料館へ寄贈された大作の数々と共に、美大生時代の作品から近作まで、50年余りの画業をたどる特別展を開催いたします。当館では初めてとなる、現存作家の作品のみで構成する展覧会です。生と死を見つめ続け、油彩画、手彩色木版画、立体、コラージュ…様々な手法で、見るもの、見えるもの、そして見えないものまでを描く、全身画家 高波壮太郎の魂の芸術をどうぞ堪能ください。



孤高の画家 高波壮太郎、50年余の画業をたどる初の回顧展 全44作品展示

高波壮太郎 略歴

1949年 東京に生まれる

1973年 多摩美術大学油彩科卒業。在学中に中本達也氏に師事

1986年 版画集『Nature』（フランセーズコレクション）を東京、パリで同時刊行

1988年 清水凡亭氏と「絵のある俳句展」を高島屋京都店にて開催

1990年 高島屋大阪店で個展開催。以降、高島屋各店で個展を重ねる

2002年 パリの吉井画廊で個展開催。吉井画廊（銀座）、ギャラリー・ラ・リュージュ（麻布）にて帰国展同時開催

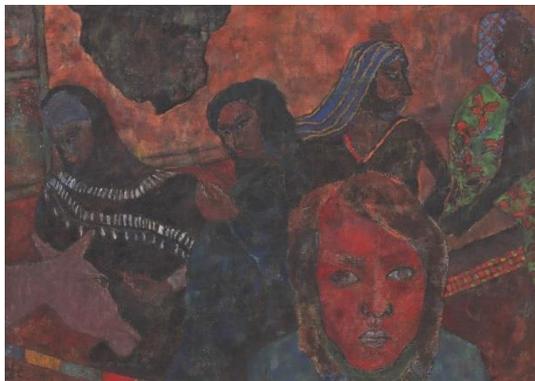
2004年 RMN（フランス国立美術館連合）より『猿俳句 12選』出版、その原画展をギャラリー・ラ・リュージュで開催

2010年 『THE BEGINNING OF SPACE（神々の開闢）』（笹川平和財団）、中東へ向けて刊行

横綱白鵬関の化粧まわし下絵制作

2019年 LAアートショー、スコープマイアミパーゼルへ出展。以降、海外のアートフェアへ出展を重ねる

2021年 高島屋史料館へ作品寄贈。ARTIFACT(N.Y.)で個展開催



《エジプト》1975年 カンヴァス・油彩 30P 作家蔵 26歳

—美大卒業後、学友と行ったエジプトの旅はとてつらかったので、強く残った記憶の作品です。—高波壮太郎



左：自画像《全然ちがうよ》1977年 板・油彩 59.3×29.2cm

作家蔵

28歳



右：自画像《嘘をついた日》1978年 カンヴァス・油彩

68.3×43.0cm 作家蔵

—28から35歳くらいまでは人生で一番つらかった頃。つらい時は自分の顔に興味がある。ゴッホやレンブラントもそうだよね。

自画像はいっぱい描いた。—



《鳥》1987年 ブロンズ粘土 24.0×27.0×15.0cm

高島屋史料館蔵

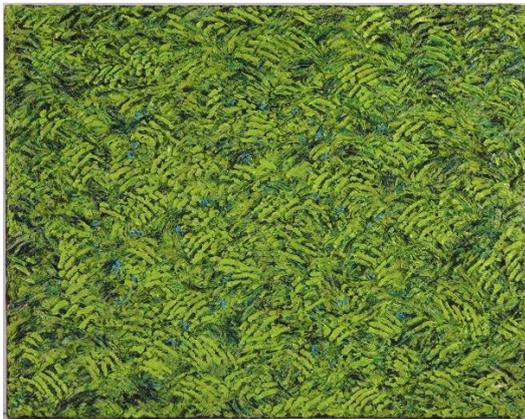
38歳

—鳥が好き。横浜高島屋の屋上（ジョイナスの森彫刻公園）にある柳原義達

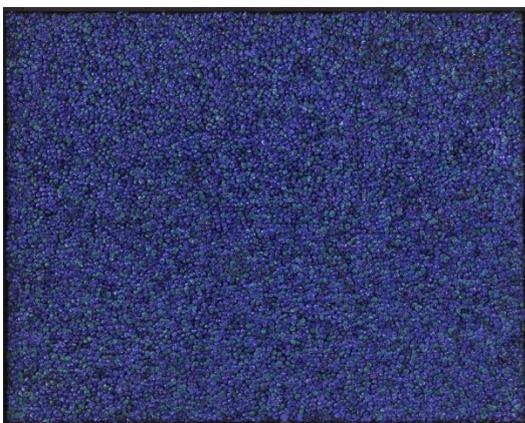
（彫刻家）の作品に影響されて作った。—



《宇宙の法則(Jungle/太陽/月/雨)》2003年 手彩色木版、木板彫刻・着彩 212.5×520.0cm 高島屋史料館蔵
 —これは油絵では表現できない。動物は人間、太陽と月と水(雨)、宇宙の必要不可欠なものを描いた。屏風も自分で彫り、色も塗ってね。— 54歳



《ツユクサ》2008年 カンヴァス・油彩 91.0×72.7cm 作家蔵 59歳
 —道端の側溝の下にびっしりと生い茂っているツユクサを見て、ああ、自分もこのツユクサのように遅く、人の見えないところでもこうやって生きていかなきゃと思った。—



《ツユクサ》2008年 カンヴァス・油彩 91.0×72.7cm 作家蔵 59歳
 —ツユクサの花の色の青色だけをやった。— ※絵の具のチューブから直接画面に打ち込んでいる。ツユクサを突き詰めた描法という。



《威風堂々》 2016年 カンヴァス・油彩 91.0×363.5cm 高島屋史料館蔵 67歳

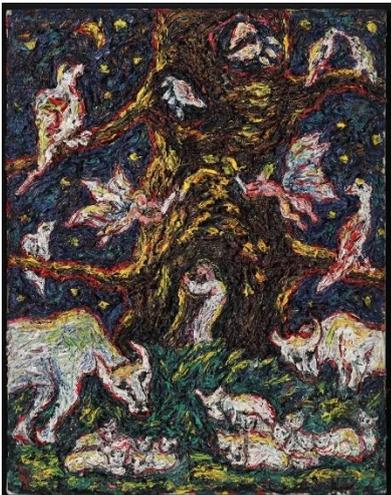
—静岡県駿河湾の三保の松。自分の中にいつも生と死が混合しているから、どちらかのもに惹かれる。

松は横に広がってすごく生きている力が強いと思った。それに惹かれて描いた。—



《その時にしか流れていない時間》 2016～2019年 カンヴァス・油彩 91.0×363.5cm 高島屋史料館蔵 67～69歳

—青春の記憶。この頃は誰とでも友達になれた。絵画教室でアルバイトをしていた時、一人の女の子がシロツメクサをいっぱいつんで来て「これあげる」と僕にくれた。とても美しい青春の思い出だ。—



《恋》 2018年 カンヴァス・油彩 10P 個人蔵 68歳

—青春の頃、よく恋をした。恋をすると、空も星もすべてが神秘的に見える。そういうものを描いている。—

《落陽》 2021年 カンヴァス・油彩 20F 個人蔵 72歳

—西伊豆の安良里の海で見た夕日。その日見た太陽の大きさが印象に残って描いた。—



イベントのご案内

※詳細は当館ホームページをご覧ください。状況により、イベントを中止する場合がございます。

1. 作家トークショー「絵画への情熱 高波壮太郎の芸術」

聞き手: 中澤一雄氏(元高島屋美術部顧問)

日時: 2024年1月14日(日)13:00~14:30 会場: 多目的ルーム 定員: 20名

要申込み・抽選制

2. 来館者参加型企画「SOUL CONNECTION」

高波壮太郎が2012年に世界各国で行った、「すべての垣根を越えて、人・心の輪が繋がっていく」というメッセージが込められた参加型パフォーマンスを再現します。

お好みの色紙にご自身の人型(心、人間)をお描きください。

会期中に寄せられた人型を、繋がり合う形にコラージュしながら作品を完成させていきます。

※お申込み不要、参加自由、色紙・筆記具はご用意しております。



展示イメージ(高波壮太郎作)

3. 学芸員によるギャラリートーク ※お申込み不要、開始時間までに企画展示室にお集まりください。

日時: 会期中の毎週土曜日 14:00~(約30分)

高島屋各店 美術画廊のご案内

高島屋各店では、下記期間におきまして「全身画家 高波壮太郎展」を開催いたします。

新作を含む計38点を展示・販売いたします。

2023年12月20日(水)→29日(金) 日本橋高島屋 本館6階 美術画廊

2024年1月10日(水)→15日(月) 岡山高島屋 7階 美術画廊

2024年1月17日(水)→22日(月) 京都高島屋 6階 美術画廊

2024年2月7日(水)→19日(月) 大阪高島屋 6階 美術画廊

2024年9月11日(水)→23日(月) 新宿高島屋 10階 美術画廊

以上